

夏休み親子環境学習講座を開催しました！（環境レポート）

香川県庁では夏の節電対策として”緑のカーテン”を県庁食堂前と東館の屋上庭園に設置しています。5月に植えたゴーヤとアサガオも順調に成長しているこの時期に、緑のカーテンによる温度効果を一般の方にも体験してもらおうと、「親子で学べる環境学習講座」を8月1日に開催しました。私たちの身近な食材のうどんからエネルギーを生み出す企業の取組みも紹介するなど、夏休みの自由研究にピッタリのこの企画に47組70名の親子が参加し、熱心にそして楽しく環境について学んでいただきました。

緑のカーテンとは

ゴーヤやアサガオなど”つる性の植物”を育て、窓辺や壁面に幕のように茂らせることで、夏の強い日差しを和らげ、室温の温度上昇を抑えることができる自然のカーテンのことです。

工代環境森林部長からの挨拶の後、講座の先生たちを紹介しました。今回協力いただいた先生は TOSS 香川に所属する現役の小学校の先生です。子どもたちとのコミュニケーションや説明の仕方はさすがプロ。講座に参加した生徒も1年生から6年生まで幅広い中、わかりやすい言葉と絵を使った説明で次のテーマを楽しく学びました。



学んだ講座

- ・もったいない！うどんからエネルギーを生み出す「うどんまるごと循環プロジェクト」を学ぼう
- ・夏を冷やせ、緑のカーテン調査隊！緑のカーテンの効果を調べよう
- ・夏休み自由研究の作り方

講師

- ・高松市立一宮小学校 光村拓也 先生 ほか

〇もったいない！うどんからエネルギーを生み出す「うどんまるごと循環プロジェクト」を学ぼう

”うどん県”として美味しいうどんが手軽に食べられる反面、時間が経って廃棄されてしまううどんがあることを最初に学びました。そして「廃棄される理由は？」「廃棄される量は？」から見えてくる私たちの生活と「もったいないから何かに使えないか？」という企業の思いを結びつけたのが「うどんまるごと循環プロジェクト」であることを学びました。

また、講座では、うどんから作られたエタノールが燃料として使える実験や、エタノールを作った残ったごみも捨てずに電気や液肥を作り出している企業の取組みを通じて、一人ひとりが物を大事にし、環境とエネルギーについて興味をもつことの大切さを学ぶことができました。

○夏を冷やせ、緑のカーテン調査隊！緑のカーテンの効果を調べよう

緑のカーテンは、植物をカーテン状にして日陰を作るだけでなく、植物の葉からの蒸散作用により周辺にたまった熱を逃がす自然の仕組みを利用した「環境に優しい節電対策」です。保護者の付き添いの下、子どもたちは温度チェッカーを使って、植物の表面と裏面の温度差や、植物とよしずの温度効果を比較したり、実験を繰り返しながらそれぞれが関心のある場所の温度を調べていました。

当日は日差しも強く、アサガオの葉からはたくさんの水が出るほどの気温でしたが、葉に触れるとひんやりと冷たく、緑が庭園に一面に広がる様子が見ただけでなく周辺の温度を下げている効果が表れているのが伺えました。



参加者の感想

(子どもからは)

- ・クーラーは中が涼しくても、外は暑くなってしまうというお話を聞いて、家の朝顔でカーテンを作ってもみようと思いました。
- ・うどんのかすをエタノールやガス、肥料にしてゴミを出さないようにするのがすごかった。自分たちも、うどんを食べる時は残さずすべて食べるようにして、少しでもゴミを減らしたいです。

(保護者からは)

- ・今年初めて我が家でもグリーンカーテンに挑戦し、家族でお世話しています。このテーマが子どもの研究に繋がっていく方法やまとめ方がよく分かりました。がんばってみたいです。
- ・先生のお話はとても分かりやすかったです。理科が苦手な子が多いと聞きますが、こういう中身のある講座を受ける機会をもっと作ってほしいです。